

わき

第134号 2024. 2. 1

議会だより

低所得世帯向け給付金3990万円 p 2

瀬田地区の課題を審議 p 4～6

一般質問 p 7～9

町づくり懇談会〔和木1・2・3丁目〕..... p 10・11



和木町議会広報広聴常任委員会
E-mail : gikai@town.waki.lg.jp



輝かしい未来へ

令和6年二十歳のつどい



低所得世帯向け給付金3990万円 住民税非課税世帯を対象に1世帯7万円給付

子育て世帯を支援 1725万円
和木町子育て給付金として高校生(18歳)以下に 1人1万5千円

1150人を対象

12月定例会は12月12日から20日までの9日間の会期で開かれました。

議会は、令和5年度一般会計補正予算1億568万円を追加し、予算総額を46億9600万円とし、各特別会計補正予算や町一般職の職員の給与に関する条例、簡易水道事業及び下水道事業に地方公営企業法の財務規定等を適用する条例など15件の議案を審議し、原案どおり全会一致で可決しました。

国からの物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の追加交付を受けて低所得者向けの7万円給付(570世帯を予定)と子育て世帯の支援給付として高校生以下に1人1万5千円(650世帯・1150人を対象)を給付する経費が計上されました。一般質問には、3人が登壇し行政全般にわたり町政を問いました。

補正予算

戸籍住民基本台帳への振り仮名法制化にかかるシステム改修事業費

770万円

現在戸籍には、振り仮名

というものが無く、住民票についている振り仮名は、便宜的な物なので情報システムでの検索や管理が難しく行政のデジタル化に影響を与えている。このことから令和5年6月に戸籍法が改正され、氏名の振り仮名が法制化されたためそれぞれ

れの関連システムを改修する事となった。

本年度以降システム追加改修、令和7年度に全住民による振り仮名の届出・確認作業が生じ令和8年度に完了予定。

森林環境税の開設に伴うシステム改修業務委託料

149万円

問 森林環境税の内容と制度、納付者の対象人数について問う。(上田議員)

答

令和6年度より個人住民税均等割(町民税3000円、県民税1500

円)と併せて森林環境税(国税)一人/年額1000円が課税される。対象者は約3000人を見込んでいる。

認定こども園管理事業費

627万円

問 認定こども園管理事業費の詳細を問う。(津島議員)

答

こども園用のICTによる保育業務の支援ツールで二次元コードによるこども園の児童の登園・降園管理また教職員の出勤管理、保育職員のシフト管理、保護者との双方の連絡ツール、緊急メール、アンケート機能を有するシステムとなっている。

非課税世帯に対する臨時特別給付金(追加交付分) 3990万円
家計急変世帯分臨時特別給付金(追加交付分) 140万円

問

非課税世帯に対する臨時特別給付金と家計

急変世帯分臨時特別給付金の給付方法、給付時期について問う。(上田議員)

答 非課税世帯はプッシュ型で口座に振り込み、家計急変世帯の方は申請が必要。

支給時期は、今年2月中旬から下旬を予定している。

国民健康保険特別会計補正予算 3700万円

問 一般被保険者医療給付費、一般被保険者高額療養費いずれも増えているが理由について問う(上田議員)

答

医療費の増額分については医療技術の高度化等により診療や調剤の費用が増えている。高額療養費は、入院や手術などが増加した。またコロナ禍の受診控えの反動も要因と考える。

和木町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

粗大ごみ等をクリーンセンターへ自己搬入する際の手数料を、軽トラック2000円、普通トラック5000円その他自動車1000円にそれぞれ増額改正するもので、改正の理由は、

燃料費や人件費等の高騰によるゴミ処理費増加への負担を求めるもの。改正は今年4月1日から予定している。

和木町総合コミュニティセンター外壁改修工事の変更契約締結

着工前に外壁の状況を調査したところ、工事にかかる経費が増加する見込みになったことから、増額分813万円を追加し、変更後の金額が9525万円となる。

和木町選挙管理委員会 委員及び補充員の選挙

和木町選挙管理委員会4名と補充員4名が指名推選され、当選されました。

委員 岡田 康彦さん

柿 重成さん

岡崎 弘夫さん

末岡 靖士さん

北野 忠さん

海井 朗弘さん

轟 眞由美さん

木村 剛志さん

補充員

視察研修



議員10人は、10月11日から13日までの3日間、岡山県里庄町と早島町で行政視察研修を行いました。

岡山県 里庄町
つばきの丘運動公園
アダプト推進事業

公園は、照明施設のある多目的グラウンドなどを持ち、年間利用者は約3万2千人で多くは夜間利用者です。特色は、利用団体に年4万円の補助金を出し、施



里庄町つばきの丘運動公園

岡山県 早島町
いきいき
ボランティア制度

設の清掃、草刈などのボランティア活動を行ってもらった。蜂ヶ峯総合公園の清掃にも参考になると思いま

この制度は、地域支援事業として住民の社会参加や、ボランティアの健康づくりや生きがいづくりを目的とする制度です。

給食サービスやふれあいサロンなどの指定を受けた受入機関で、登録されたボランティア活動を行うことによりポイントが付加され、ポイントが換金されるシステムで、令和4年はボランティア30名、換金総額は8万2千円でした。

ボランティア不足解決の有効な手段であると感じました。

岡山県 早島町
人にやさしい図書館

早島町図書館は、町民のみならず隣接する岡山市、倉敷市からも来館者が多く、登録者数9千5百人を数えます。早島町の人口は、約1万3千人です。



来館者の多い早島町図書館

「人にやさしい図書館をめざして」をモットーに運営しており令和3年度の図書蔵書数は15万8千冊です。運営は、館長と司書2名、会計年度職員5名で行っています。古典文学講座や伝統文化の講座など、和木町立図書館の運営にも参考になるべき内容が多くありました。

コンパクトタウン

「第10回全国コンパクトタウン議会サミット早島」に全国17議会、約100名もの議員が参加しました。コンパクトタウンとは、面積20km以下の小さな町です。サミットでは、「観光」「定住促進」「産業振興」「議会改革」の分科会に分かれ、2日間にわたり活発な議論を深めました。



パワーハラ研修

議員10名が、山口県議である有近眞知子弁護士からパワーハラスメントについて研修を受けました。

議員の発言が、行政職員にとって、パワーハラとならないか。

激しく厳しい言葉でなくとも、聞き手側がパワーハラと感じたらパワーハラの可能性がある。すべてのハラスメントは、受け手側がどう感じるかが問題となることを学びました。



議会で審議

総務文教常任委員会

* 工場建物の老朽化への対応

問 日本製紙の工場建物が老朽化しており、建物内の危険物の確認や建物倒壊の危険性の調査要望がある。

答 建物内の危険物である重油や薬品は、確認後既に搬出済み。敷地境界の塀は強度の確認を行っており、建物は警備員が毎日巡回し、異変があれば工場に報告する。



老朽化する日本製紙工場建物

問 和木町は平成の大合併で単独町制を選択したが、選択での利点等は比較検証したか。

答 当時は、合併のメリット・デメリットを比較し、メリットが少ないと判断した。町で「合併した方が良かった」という意見はなく、比較検証をしたこともない。

* あいあいバスの運用について

問 あいあいバスの和木駅発最終便が、瀬田方面18時10分と早くなったが、19時台の復活はできないか。

答 最終便廃止は、厚生労働省が策定したバス運転手の労働時間等の改善基準に基づき、運転手の長時間労働の改善を図るために行った。復活には追加の運転手を雇用するため、年間500万円を超える費用が必要である。

問 つつじヶ丘、関ヶ浜地区の小学生のバス通学について、通学路の交通状況や環境の悪化を考慮して、登校時に「あいあいバス」を利用できないか。法律で4kmという通学距離の制限はあるが、子供たちの命を最優先に考えるべきでは。

答 小中学校長宛に住民から陳情書が出ており、小中の学校運営協議会で協議・検討してもらう。内容をすりあわせた後、「和木町コミュニティ・スクール委員会」に報告し、2月中旬頃に確認をする。



町民の重要な交通手段 あいあいバス

* 高齢者避難支援制度の更新

問 高齢者避難支援制度が始まったが、対象者は年々増加する。避難対象者情報を自治会長に年1回連絡しているが、人命に関わる重大なこともあり、年1回では対応不十分ではないか。

答 まず各地区民生委員による「高齢者実態調査」から「要配慮者名簿」を作成し、名簿に掲載された方が「個別避難計画」の対象者になる。この「要配慮者名簿」は年1回の「高齢者実態調査」を受けて更新されるため、現行「個別避難計画」も年1回の更新を原則としている。

その他の質疑

* 小中学校での不登校児童・生徒の現状

問 コロナ感染症拡大で、子ども達を取り巻く社会状況や学校生活に多大な影響があり、不登校児童・生徒が増加した報告がある。町の小中学校での不登校児童・生徒の現状は。(上田議員)

答 令和2年度以降少しずつ増加傾向にあり、小中学校合せで令和2年度は4人、3年度は6人、4年度は8人となっている。殆どの不登校児童・生徒は、町教委が設置する教育支援センター「スマイルルーム」入室登録しており、町教委も不登校児童・生徒とその家庭にしっかりと寄り添い、家庭訪問やケース会議で支援を行っている。

* 会計年度任用職員の報酬金額は

問 和木町の会計年度任用職員の報酬金額はどのように決定されるのか。(上田議員)

答 原則として、一般職員の給料表を準用して報酬額をいづれかの号給に当てはめる。当てはめる号給は、職種・必要な資格等を勘案して決定する。額は最低賃金を下回らないように決定し、近隣市町の状況も調査して決定する。

瀬田地区での課題を

民生建設常任委員会

* 県道蜂ヶ峯公園線の着工

問 さくら遊園地からの、県道蜂ヶ峯公園線の工事の進捗状況は。

答 蜂ヶ峯公園入口のテレビ塔付近の道路改良工事が、間もなく着工。期間は令和6年12月までの予定で、完成は未定。

* 集会所や公園の維持管理

問 集会所や坂根児童公園等に草が繁茂している。自治会だけでは対応が難しく町での対応は可能か。

答 草刈りの要望は今後の町づくり懇談会でも出ると思っているので、全地区の要望をまとめた後に検討する。

問 蜂ヶ峯公園の整備に関し、キャンプ場の利用者がほとんどいない状況が続く目に余る。整備するの他の活用を考えるのか。また、公園内の見晴台は景観が良いので、整備して使用できないか。

答 現在、都市建設課内にリニューアル検討委員会を設け、キャ



手入れが必要な蜂ヶ峯公園キャンプ場

ンプ場という用途に限らず、観覧車やスケートボード場も含めた広いエリアの活用も視野に考えている。
見晴台は「物見台広場」と呼ばれ、公園施設ではなく、団地開発時に県が配水池建設に併せ整備し、現在は町が管理している。団地に接しており、集客施設としての整備は難しい。

* あいさつ通りの景観対策

問 大和橋から役場庁舎に続く町道「あいさつ通り」に、街路樹として町木ヤマモモが植栽されている。街路樹として相応しくないのか多くが伐採され、石や岩が配置されている。町並みの景観として街路樹が必要かどうか今後の対応は。

答 当初はつつじも植栽していたが、管理が困難で石や岩を配置。ヤマモモは40年が経過し、排

気ガスの影響で枯死し28本が残る。この新大和橋通り線は、都市計画道路として整備され、町のメインストリートでもあり、整備、維持管理の方法は検討を進める。



景観が大事なメインストリート

その他の質疑

* 道路規制について

問 通学時に児童が安心して通学できるように、和木4丁目から国道に抜ける町道に規制をかけることはできないか。朝の通勤時間に車やバイクが往来し危険だ。

答 地元の理解があれば（最低でも5世帯の同意は必要、公安委員会に依頼し、協議したい。

（嘉屋議員）

* 鳥獣対応について

問 今年は例年になく熊やイノシシ等の目撃情報が多い。遭遇した場合の対応や、罠設置等の資格や捕獲後の処理は。

答 熊は目を離さず、ゆっくり静かに後退し避難。イノシシ等その他の動物も同様に静かに避難する。鳥獣を駆除目的で捕獲する場合は、狩猟免許と有害鳥獣捕獲許可が必要。捕獲後の処理は、猟友会に依頼するか、町の最終処分場で埋葬する。



国道2号線に抜ける和木4丁目町道

町づくり懇談会

瀬田地区での課題を議会で審議

問 瀬田地区（分館前）のバス停止場所に、

日よけと椅子の設置を検討できないか。高齢化が進んでいることや地球温暖化により、熱中症対策として以前と同じように設置を検討できないか。

答 あいあいバスについては、特定の場所を除きバス停を設けていないため、日よけや椅子は設置をしていない。バスの到着間際までご自宅

で待機いただき、ご乗車頂ければと思う。

問 瀬田口の公衆トイレ入口まわりを明るくきれいに維持できないか。

答 トイレの山側は私有地となっており、

管理者が年2回の剪定を実施している。状況に応じて伐採等の依頼はするが、私有地につき町での実施が困難である。

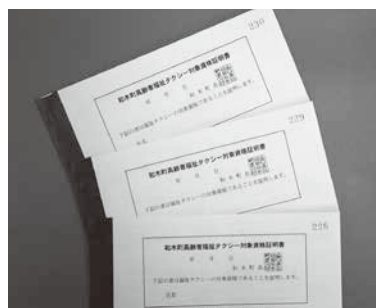
問 和木町も少子高齢化が進んでいるなか、今後のことを考えると、敬老金は廃止の方向で検討してはどうか。

答 敬老金支給事業について、現時点での廃止は考えてないが、町の財政状況次第では支給額の減額について検討することもありうる。

問 高齢者福祉タクシー券の利用対象者は、70歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみで構成される世帯の

世帯主である方で同一敷地内または近隣（隣接地）に子息等が居住していない方となっている。70歳以上で同居家族がいる方にもタクシー券の配布を検討できないか。また、枚数の増加を考えられないか。

答 予算を伴うことから、本制度の見直しは現時点では考えていない。



対象者拡充が望まれるタクシー券

問 引き込み線の跡地利用をどのように考えているのか、現状と今後の予定は。

答 引き込み線の跡地利用については、こ

れまでに引き込み線跡地検討委員会を設置して協議をおこなってきたが、現時点において新たな計画案がある状況ではない。引き続き事業化へ向け、検討していく。

問 瀬田地区の急斜面（道海公園上側水路付近・瀬田2丁目集会所横）では雑木も多く、土砂災害の発生が考えられることから整備を検討できないか。

答 瀬田地区の急斜面で異常な兆候が確認された場合には、現地調査、対策工事を行う。

問 坂根川上流の堰堤は定期的な点検整備を行っているのか、また、内容は。

答 山口県が管理する治山堰堤は、5年に1度点検を実施しており、

構造物等の状態を確認している。

問 日本製紙工場裏の道路が狭く緊急車両も入れないため、道路の拡張は検討できないか。また、工場前の護岸工事の進捗状況は。

答 日本製紙工場裏の狭い道路の拡幅整備には、地権者の同意が得られ、自治会を通じて町に要望があれば検討する。瀬田川の護岸工事は、令和5年度、延長10mの整備が行われる予定となっている。



緊急車両が入れない日本製紙工場裏の道路

Q 学校における働き方改革を どのように推進するのか

なかむら みつこ
中村 充子 議員



質問

社会の急激な変化が進む中で、子どもが予測不可能な未来社会を自立して生き、社会の形成に参画するための資質や能力を育成するため、学校教育の改善・充実が求められている。

また、学習指導のみならず、学校がかかえる課題は、より複雑化・困難化している。このような、教員勤務実態調査の平成28年度の集計でも、看過できない教師の勤務実態が明らかになった。

教育長 働き方改革は学校だけではなく、
教育委員会も一緒になって推進を行う



働き方改革に取り組んでいる中学校

教育長

全国で働き方改革の取り組みの実施が着実に進んでいるとの結果が出ている一方で自治体・学校間の取り組み状況に差がみられ、さらに取り組みを加速する必要があることも明らかになった。

学校における働き方改革の推進について教育委員会ではどのように考えているか。

委員会も一緒になって推進をしている。

教育予算や教職員定数の改善、教員確保等については、国や県が先頭に立って改革を進めるが、一人ひとりの教員の勤務時間管理及び健康管理、業務改善の見直し等の責任を有しているのは各校長であり、服務監督をするのは教育委員会であるので学校の課題を互いに共有し、学校の実態に合わせて改革を進めている。

本町の小中学校においては、県教委が定めている「山口県学校における働き方改革加速化プラン」に沿って進めている。このプランには、取組を進めるための3つの柱として、「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」があげられている。町教委、学校ともにこの3つの柱を意識した改革を進めている。町教委としては、教職員を集めた会議の簡素化、長期休業中における学校閉庁日の設定、町雇用教

職員や業務支援員等の配置を行っている。

学校では、部活動を中止する日を設定したり、除草作業に地域ボランティアの支援を受けたりする等の取組を行っており、時間外在校等時間の縮減を図っている。

学校における働き方改革の推進については、保護者や地域の方々の理解も必要不可欠であると考え、地域に開かれた学校づくりを進めることで学校への関心を高めていただけるような働き方も行っていきたい。



工夫して取り組むクラブ活動

障害者相談が少ないことを どう受け止めるか

はいおか ひろみ
灰岡 裕美 議員



*相談支援

質問

本町には障害者の特定相談支援事業所がない。障害者や家族の相談に当課はどう対応しているか。

課長

町ホームページで周知しているが、保健福祉課と委託相談支援事業所で相談に応じている。また、地域包括支援センターや町内の民生委員との連携や町内の身体障害者相談員、知的障害者相談員各1名、岩国市療育センターでも受け付けている。

質問

障害者や関係者が役場の個室を利用して相談に応じてほしいという希望の場合どう対応するか。

課長

事前に担当課に連絡があれば、会議室などの部屋を用意する。支援事業所の相談員は自宅への訪問相談も行っている。

質問

担当課及び町内相談員への相談件数は。

課長

担当課への相談は、新規福祉サービス利用に関する事が年間5件、悩み事が2件程度あった。身体障害者相談員への相談は、令和3年4年ともに0件。知的障害者相談員への相談は令和3年7件、令和4年5件。

質問

町内の相談件数が少ないように思うが困っている人が少なかったと思うか。実績をどう受け止めるか。

課長

福祉サービスを受けている人が、事業所の相談員に相談していると受け止めている。

*手引きの配布

質問

ホームページにある「障害者福祉の障害の手引き」は、障害者の関係者に毎年配布しているか。

課長

窓口で問い合わせがあれば、渡している。関係者に毎年配布は行っていない。

質問

大変詳細な内容の手引きである。ホームページから読むのは当事者や高齢の家族には難しいのではないか。毎年、配布してほしい。

課長

悩み等があれば、保健福祉課に問合せしてほしい。手引きは、依頼があれば渡したい。

*自立支援医療受給者証の更新

質問

受給者証は、毎年更新する必要がある。障害者各々により更新月が異なる。

更新月に町からの案内はない。当事者や高齢の家族には把握が困難で、実際には把握が困難した為失効した人がある。町から、更新月の通知をすることができないか。

課長

自立支援医療、精神通院医療はデリケートな問題で病状について担当課も把握していない。病状に影響を与えてしまう可能性もあること、病状の程度が変化することがあるので、自己管理のもと各自の判断で更新の申請をするようお願いする。



顔合わせ声かけあえる和木町に

その他の質問
○町の広報誌をカラー化に戻せないか

防災を想定した訓練の目的は

もりわき あけみ
森脇 明美 議員



企画総務課長 住民への防災意識の高揚を
目的とする

質問 予定された訓練内容の詳細とどのような成果を想定していたか。

課長 個別避難計画の実行性を検証すること、地震発生による被害情報の収集・対応、住民への「防災意識の高揚」を目的とした3つの区分により計画した。

質問 避難情報の発令や災害対策本部及び消防団の災害対応の内容は。

課長 地震発生以降における災害情報等の収集、災害対応を行い、災害対策本部で収集・整理した情報から災害の全体像、町としての対応の焦点を明らかにし、町の当面の対応方針等を関係部署に明示すること。

質問 住民の避難行動について、検証結果の予定は。

課長 当日は、個別避難計画に基づき避難支援関係者から支援対象者へ

の連絡及びその結果を町へ通報、町は支援計画に基づき、公用車、マイクロバス、消防団車両を運用して支援対象者を避難所までの移動支援を行い、支援の手順と相互理解、本計画による実効性の確認を行う予定だった。

質問 高齢者、障害者が含まれた避難訓練は実施される予定だったか。

課長 町から、個別避難計画の対象者である、全部で「58世帯70名」の方々全てに今回の防災訓練の案内を行ない、33名の方から参加の回答があった。その中には、日常車椅子で生活している方や、視覚障害のある方も参加予定だった。

質問 今回防災訓練が中止になったが、早期に防災訓練を行っていたらどう思うかがか。

課長 今年度中に実施することは困難と考える

ている。
来年度の訓練計画を考える上で、本年度と同様に3つを同時に実施するか、分けて行うか検討し、令和6年度中の適切な時期にあらためて実施したいと考えている。



令和元年に行なわれた住民避難訓練

*ボランティアポイント制度で福祉の充実を

質問 本町の福祉ボランティア活動の現状は。

保健福祉課長 町では社会福祉協議会が、ボランティア活動に関する相談や支援、育成、情報発信など、ボランティア活動推進事業を実施している。

質問 町が掲げる協働の町づくり推進のためにも、今後ボランティア活動者をどのように増やしていけばよいか伺う。

課長 募集活動をはじめ今後も、社会福祉協議会や関係団体と連携・協働し、若い世代を含め、ボランティア活動への参加意欲を引き出す対策や、地域特性を活かした社会貢献活動について検討していきたい。

質問 視察した岡山県早島町のような、介護保険法に基づいて地域支援事業としてボランティアポイント制度導入を考えたかどうか。

課長 町では、和木学園構想に沿った「3つの元気プロジェクト」を令和元年から継続し実施しており、協働の視点で各部署が連携し、セルフケアを推進すること、健康寿命を延伸し、介護予防に大変効果をあげているため、ご理解を頂きたい。

2班



- ①賃貸住宅が多く、転出が多い和木町の定着率を高めるため、人口減少対策や空家問題をしっかり考えていくべきだ。
- ②町民は気づきにくい、和木町の強みをもっと外に向けて発信し、住み続けたい町の発信とピーアールをして欲しい。
- ③和木町の企業の永続性は分からないため、企業との情報交換を密にして、大企業跡地の問題なども対応すべきだ。
- ④社宅の建替え等で、家庭持ちの社員が和木に戻ってくる可能性もある。企業の状況と情報収集を行い、将来に対する政策を考えるべきだ。
- ⑤買物難民がいるので、旧幼稚園跡地の活用においてスーパーの誘致を考えて欲しい。また子育て世代を中心にした住宅もできるのが理想だ。
- ⑥町づくりには、地域での繋がりや声かけ、近所

づきあいが大事で、災害時にも役立つ「向こう三軒両隣」の考えが必要だ。

- ⑦自治会に加入しない世帯が増えてきたが、子供会、自治会、敬老会などが繋がって餅つき大会や地区祭り、盆踊り大会などに参加させる工夫が必要ではないか。
- ⑧町内の安全性を高めるため、コロナで休止状態であった防犯パトロールを復活して欲しい。
- ⑨津波や川の氾濫時における避難態勢の確保と情報が入手できる環境を作ることが必要ではないか。特に災害弱者への対策はしっかりお願いしたい。
- ⑩さくら公園から延びる県道蜂ヶ峯公園線における工事進行状況を、今後も住民に定期的に知らせて欲しい。
- ⑪大和橋から役場までの街路樹については、メリットデメリットはあるが、今後の方向性を考える必要がある。
- ⑫和木町内の狭い道路や交差点、三叉路には、注意喚起のためにカラー舗装をして欲しい。
- ⑬投票率の低さを少しでも低減するため、3年後には選挙権を持つ中学3年生の中学生議会・子ども議会をやるべきではないか。町の将来を考え、ふるさとへの愛着を抱くためにも子ども議会を考えるべきでは。
- ⑭議員にとって一般質問は大事な仕事であるのに、やらない人がいるのは残念だ。

3班



- ①町民プール横のカイツカが道路にはみ出しているので切って欲しい。
- ②役場前丁字路のゼブラマークが消えかかっている、塗って欲しい。
- ③小瀬川沿いの遊歩道に街灯をつけて欲しい。
- ④あいあいバスの最終便を復活させて欲しいという意見があるが、復活させるなら予算をつけないといけないと思う。
- ⑤つつじヶ丘の坂道が滑りやすいため、バス通学に変えた方がいい。
- ⑥関ヶ浜地区は徒歩通学を継続するべきだ。
- ⑦関ヶ浜地区の旧和田衣料品店前の十字路に信号をつけて欲しい。

- ⑧和木駅前丁字路に信号をつけて欲しい。
- ⑨文化協会がよく頑張っているから継続して欲しい。
- ⑩中学校の前あたりの水銀灯をLEDに変えてほしい。
- ⑪町営バスが傷んでいるが、修理費が税金の無駄使いに思える。
- ⑫子ども神輿の数が減ったが、以前のように戻して欲しい。
- ⑬役場西側の駐車場のラインが消えかかっている、ラインの引き直しを考えてほしい。
- ⑭和木中学校前の水路がゴミ、沈殿物、虫などで汚いため、きれいにしたい。
- ⑮駐在所付近の水路をきれいにするために、水をもっと流して欲しい。
- ⑯坂根川から蜂ヶ峯に上がる遊歩道をきれいにしたい。
- ⑰中道のグレーチングが滑りやすいので直して欲しい。
- ⑱養専寺前から和木郵便局までのアスファルト舗装は高品質だが、他の道路と違うのはなぜか。
- ⑲ボランティアポイント制度を和木町にも取り入れて欲しい。

議会町づくり懇談会

和木1・2・3丁目
の皆さんと開催

～ 町づくりから生活環境までの
幅広い意見交わされる ～

議会は11月25日(土)和木1・2・3丁目地区の皆さまを対象に和木美術館にて町づくり懇談会を開催しました。

懇談会では、町づくりについてなど、さまざまな要望や意見が出されました。

議会は問題を解決できるよう取り組んで参ります。

なお、次回は2月17日(土)〔予備日3月2日(土)〕和木4・5丁目地区の皆さまを対象に和木4丁目第2集会所で開催予定です。

※議会町づくり懇談会は、議会と住民が共に町づくりについて話し合い、地域の課題や問題点を一緒に考えていく場です。

1班



- ①自治会で高齢化により人手が足りない状況が続いており、自治会の活動に不安があるため、若い方の協力が欲しい。
- ②行政の施策で年齢層の若い方に自治会やボランティアなどの参加の呼びかけはできないか。
- ③歩行に困難を訴える高齢者が多くなっているため、大竹市とバスの協定を結んで欲しい。
- ④町の広報誌が白黒になり寂しい。活気や町に

関心を持つため、カラーに戻す事を検討して欲しい。

- ⑤町の行事で行われたイングリッシュスポーツのイベントは大変良いと感じたため、今後も継続して欲しい。
- ⑥町外の保育所、幼稚園に通われている方が複数人いるので、状況を教えて欲しい。
- ⑦小、中学校のボランティア活動は、自治会活動にも協力してもらえないだろうか。
- ⑧市民の健康とふれあう場所づくりが必要なので、ジムなどの施設が欲しい。
- ⑨車の免許返納者に対してのタクシー券の配布と補助範囲を拡充して欲しい。
- ⑩バスのオンデマンド化の検討はされているのか。
- ⑪市民の生活道路として活用されている道路において、個人所有になっていても舗装や整備をしてもらえないか。
- ⑫岩国市で行っている障がい者の方や障がいを持つ子どもたちへの通所支援サービスや就労支援を、和木町でも行ってもらえないか。



インタビュー記事

二十歳のつどい実行委員の 皆さんに聞きました

- ① 和木町の素晴らしいところ
- ② 和木町に望むこと
- ③ 将来の夢



くにひろ
あき
廣 孝生 さん

- ① 広島県に近くすぐに都市部に行ける場所にあり、静かでとても住みやすい場所。
- ② 元々和木町に居住していた人が大学生になった時の支援。
- ③ 人々が楽しめるものが作れるプログラマー。



いわさき
りく
岩崎 陸 さん

- ① 小さい街だからこそ、地域のまとまりとか「輪(和)」が強くてあいあいとしている！離れたところに暮らしていても帰ってきた時のアットホームな空気感。
- ② 商業施設などの若者の楽しめる空間を増やすこと。老人ホームなどのお年寄りも安心して暮らせる施設を充実させること。
- ③ 地図に残るものを作る技術者になること。

あきざき あやか
秋崎 彩香 さん

- ① 人がみんな優しくアットホームな雰囲気に住みやすいところ、交通の便がいいところ。
- ② 今は和木町を離れているが、住んでいた間はいい町で満足していた。
- ③ 人の楽しみをお手伝いできるような人と関わる仕事がしたい。



あわかわ たいよう
粟河 太陽 さん

- ① 児童生徒を育てやすい環境にあり、都市部にも近く生活がしやすいところ。
- ② 大学生への支援をしてほしい。具体的には医療費の負担等。
- ③ 和木で育った経験を活かして社会で活躍したい。



うえむら ゆめ
上村 優芽 さん

- ① 地域の交流の場が多いこと。
- ② 子供から高齢者までもっと暮らしやすい町にすること。
- ③ 影響力のある人になりたい。



編集後記

令和5年度は町づくり懇談会を
新人議員の紹介を兼ね、年に4回
開催することにしました。

町づくり懇談会の中で、町民の
皆さまにいただいた問題点につい
て委員会ごとに行政側に質問をし
て答えをいただいたところです。

全質問について掲載することは
できませんのでご了承ください。

本年の決意を和木チャンネルの
アイキャンで15秒ほど撮影して
いただきました。15秒ですので
語り尽くせませんが私は、今年議
会議員となり10年目を迎えます。
疑問に思うところはしっかりと
取り組み良い町になるよう心を
尽くして参ります。

広報の仕事も好きなので楽しく
広報誌づくりも頑張りたいと思い
ます。今年も宜しくお願いいたし
ます。

(中村 充子)

発行責任者
議長 兼 本 信 昌

広報広聴委員長
森 脇 明 美

広報部
上田 丈二 中村 充子
明本 光弘 三分一 淳